

2024年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

HRS鈴鹿 Motoクラスアドバンスコースの2024年シリーズがいよいよ開幕
難しいコンディションのレースでアドバンスコース生2名が表彰台獲得!!

4月20日(土) 公式予選 10:10~10:30◎天候・路面: Cloudy・Dry

#11 遠藤翔類 5位/2'24.325

#19 戸高 綸太郎 7位/2'24.469

鈴鹿サンデーロードレースシリーズ・J-GP3クラスに参戦するTeam HRS。2024年もその開幕戦を迎えた。今期のライダーは、アドバンスコース2年目となる遠藤 翔類と、昨年のHRS鈴鹿 Motoクラスの修了記念走行で優勝した戸高 綸太郎の2名となる。

予選が行われた4月20日(土)は、雲が多いものの気温も高めで、好タイムが期待できるコンディションとなった。午前10時10分に20分間の予選セッションが開始され、遠藤、戸高の順でコースインしていく。遠藤はセッション序盤に集団に飲まれてしまうが、中盤以降ペースを上げていく。一方、戸高はアタック開始早々にコースアウトしてしまうものの転倒には至らず、コース復帰後は徐々にタイムも上昇していった。

遠藤は7周目にベストとなる2'24.325を記録し、2列目5番手グリッドを獲得する。だが目標としていたタイムにはまだまだ及ばず、ややフラストレーションの残る結果となったようだ。そして戸高はラストラップで2'24.469を記録。戸高も遠藤と同様に目標としていたタイムには及ばなかったが、7番手グリッドを獲得し、上位進出も十分に狙える位置につけて決勝レースに臨むこととなった。



4月21日(日) 決勝レース(フルコース8周) ◎天候・路面: Cloudy・Wet/Dry

11 遠藤 翔類 総合3位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位
19 戸高 綸太郎 総合6位/ナショナルクラス3位/NSFチャレンジ4位

前日の予選とは異なり、この日は朝から分厚い雲が空を覆う天候。路面はほぼドライだったが、J-GP3クラスのレースが始まる直前には雨も降り始め、ウェット宣言によって自動的に周回数が10周から8周に減算されることに。チームもグリッド上で慌ただしくレインタイヤへと変更し、レースは小雨模様でスタートした。

5番グリッドの遠藤はスタートで数台に先行を許すものの、すぐにポジションを回復してオープニングラップを5番手で戻って来る。戸高は9番手とややポジションを落として2周目に突入する。やがて遠藤は3位グループに追いつくと、4周目にはグループから抜きんで単独3番手に浮上した。戸高も6番手までポジションを上げ、さらに好タイムを連発し、直前まで遠藤とバトルを繰り返していた4番手グループの2台に合流する。

レースが終盤にさしかかると、上位の2台がペースを落とすが、遠藤はハイペースでその差を徐々に詰めていき、最終ラップにファステストラップ(2'30.214)を記録する走りを見せた。しかし、その追走及ばず総合3位でチェッカーを受ける。

その後方、3台でバトルを繰り返していた戸高は、ラストラップのバックストレートでグループトップの4番手に浮上するものの、ゴール直前の日立ASTEMOシケインでパスしたライダーに再び先行を許してしまい、総合6位でゴールした。

それでも、ナショナルクラスでは遠藤が優勝、戸高は3位となり、シーズン初戦で二人そろって表彰台に登壇した。



ナショナルクラス表彰(1位) 遠藤翔類(中央) (2位) 針尾大治郎 (3位) 戸高 綸太郎(右)

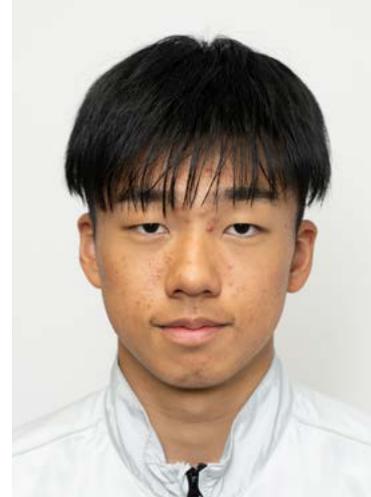


2024年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選5位 決勝総合3位 (ナショナル1位/NSF
チャレンジ1位)
遠藤 翔類 (えんどう かける) 14歳**

『予選では位置取りが悪く、セッションの中盤くらいのクリアラップでもタイムを出せませんでした。目標のタイムにも程遠く、予選のベストタイムも前のライダーのスリップに入って出たタイムでした。自分のピークにもっと早く到達できるようにメンタルをコントロールしないといけません。決勝も予選と同じで、序盤でペースを上げられませんでした。そのために序盤で上位グループに引き離されてしまいました。レースの終盤、トップグループのペースが落ちてきたので距離が縮まりましたが、あと一歩及びませんでした。もっと早くペースを上げないといけませんし、前を走るライダーをパスする際にもロスが多すぎです。今回のレースで自分の課題はより明確になりました。次のレースまでにフルコースを走る機会が多いので、ペースの上げ方や自分自身の走りの分析、課題の解決にしっかりと取り組もうと思います』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選7位 決勝総合6位 (ナショナル3位/NSF
チャレンジ4位)
戸高 綸太郎 (とだかりんたろう) 13歳**

『予選はあまりうまく組み立てられず、思うようにタイムを伸ばせませんでした。予選の序盤にはオーバーランもしてしまいました。(2分)23秒台を狙っていましたが、金曜の特スポ(特別スポーツ走行)で、130Rで転んでしまったこともあり、十分に走行が出来ませんでした。決勝では、序盤はすこし慎重すぎでした。序盤から積極的にペースを上げていくべきだったと思います。最終ラップのバックストレートで4番手に上がれましたが、その後のシケインで差し返されてしまったのが悔しいです。レースで前のライダーとの距離を縮められたのは良かったと思いますが、もっと早めにペースが上げられていたら違った結果だったかもしれません。次のレースでは、特別スポーツ走行からしっかりとタイムを出して、予選ではポールポジション、そして決勝ではもちろん優勝を狙いたいです』



2024年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書



岡田忠之Principal

『今回は2名ともいい走りを見せてくれました。初戦としてはまずまずの結果を残せたと思います。遠藤は決勝の序盤、前を走るライダーをなかなか抜けずに、トップに追いつくのが精一杯なレースとなりました。今後は前走者を上手に抜くテクニックを身に着ける必要がありますね。戸高はレースの中盤から後半にかけてペースをつかんで前のライダーをパスすることができましたが、ラストラップで抜き返されたのは残念でしたね。レース前、遠藤は伸び悩んでいたため、レースウィーク中も映像やデータ分析によるアドバイスを繰り返しましたが、今回クラス優勝という結果を残せたことで、少しステップアップができたかなと思います。そして戸高ですが、練習走行では(2分)27秒くらいのタイムでしたが、予選では24秒台を出すことができました。課題はまだ多いですが、これからが楽しみなライダーです。本人も自分の走りの分析に人一倍時間をかけていて、そういった熱心さが今回の結果につながったと思います』

